

歴史を歩く 43

おおさきの歴史を旅してみませんか⑨

（大崎郷の最大の商業地として栄えた街（大崎上町地区））①

江戸時代、この地域は大崎郷の中でもっとも活気のある場所でした。

日用雑貨などの必需品を商い、郷の必要な物資を調達する『野町』であり、神社・寺院の門前町としてお参りに来る人の憩いの場所でもありました。明治30年頃は大崎村の商業中心地として発展しました。

1 補陀山月笑寺跡



▲5世禅勇健剛和尚の墓と不動明王像



▲盆近花（ぼんちか）

心慶寺の隠居寺で心慶寺2代目住職の鷹岳宗俊和尚が建てた。

江戸時代中期頃5代目住職の禅勇健剛和尚は、寺の門前に『七夕地蔵』を据え、お盆の準備のため市に来る人々に、ここでお盆に現世へ戻ってくる精霊（先祖霊）を迎えるように呼びかけた。これが『精霊迎え』の始まりとされている。

明治時代に廃仏毀釈によって寺は失われてしまったが、研修センターグラウンドに隣接する墓地には禅勇健剛和尚の墓が残っている。

お盆の頃に花を咲かせる『むくげ』のことを『盆近花（ぼんちか）』と呼ぶのも、この地が発祥と言われている。



大崎上町地区

2 内田武右衛門の墓

寛政8年（1796年）と寛政12年（1800年）に起こった飢饉で、食糧が乏しく困っている人のために、自分の米を配給し、薩摩藩から表彰された人物の墓。



3 七夕地蔵

旧暦7月7日に初盆の家族は精霊を迎えるため、ここでお参りをする。

廃仏毀釈で一度失われたが、地元の林常吉氏によって大正8年7月に再建された。地域の人々が地蔵を管理し、精霊迎えの準備・運営を行っている。